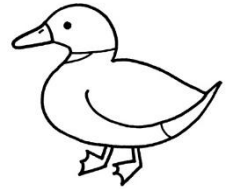


## 戻ってこられる場所として



入園・進級から1ヶ月が経ち、子どもたちは環境の変化からの戸惑いも徐々に薄れ、自分の好きな場所や好きな遊び、好きな友だちや先生を見つけ幼稚園での生活を楽しみ始めている様子が見られます。でも、まだ1ヶ月。子どもたちも緊張し、たくさん動かした心と体の緊張の糸がプツンと切れ、疲れも見られる時期です。幼稚園で頑張っているんだという気持ちでなるべく寛容に受け止め、規則正しい生活を心がけ子どもたちの健康に留意していきましょう。

さて、4/5(金)雨がしとしとと降り、寒さを感じる日でしたがピカピカのランドセルを背負った新一年生たちが幼稚園に顔を見せに来てくれました。そういえば、3月の中旬には小学校の卒業式を迎えた卒業児たちがとっても大きくなった姿で顔を見せに来てくれました。(もう、私の身長を超えた子もいました)そして、4/7(日)には、新入学お祝い礼拝を行い、何人かの新一年生や進級したての子どもたちと礼拝を捧げました。その週には、在園中のお母さんに連れられて大阪から久しぶりに顔を見せに来てくれたお引越組のお母さんと子どもたちが幼稚園に来てくれました。新一年生のY君は朝練と称して時々ボールを蹴りに登校前にちょっと顔を出してくれます。4月は切り替わりの季節であり、こうした機会が増えることはもちろん知っていますし、毎年の嬉しい時間でもあります。だからこそ、この嬉しさを当たり前ではなく素晴らしいこととして記しておきたいと思います。前任の草ヶ谷先生が「いつでもいいからもどってらっしゃい。」と本当によくお話ししていました。この言葉の深さや重さを年々感じます。嬉しい時も悲しい時も**どんな時にも**教会と幼稚園はあなたを待っています、神さまと一緒に。きっとそのようなメッセージが込められていたのではないのでしょうか。私はまだまだ草ヶ谷先生のように暖かく奥が深い「待っています。」を届けることはできないかもしれません。しかし、戻ってこられる場所づくり位は少しできているかな?いや、そういう場所であって欲しいと心から願います。子どもも大人もいつでも帰ってきてよい場所を持っていることはとても安心だと思います。その選択肢の一つに幼稚園、教会があったらそれはとても嬉しいことです。そんな幼稚園であり続けたいと思います。

新年度が始まり、みんな初々しくってどんなときでもまぶしくて、新鮮に感じます。この幼稚園でたくさん大きくなってこの子たちもいつしか戻ってくる日があるのかと考えるだけで楽しみになります。湿っぽくなりましたが、まだスタートしたばかり今年度も子どもたちと共にエンジン全開フルスロットルで走り続けていきます。